

会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	令和2年度 第2回近江八幡市子ども読書活動推進委員 会議		
開催日時	令和 3年 2月 5日（金）15:15～16:30		
開催場所	文化会館 オーケストラ練習室		
出席者 会長◎ 副会長○	<子ども読書活動推進委員> ◎市島委員 水委員 宮治委員 福地委員 温井委員 山田委員 <説明者・事務局> (挨拶) 東生涯学習課長 (事務局) 国本生涯学習課指導主事 (担当者) 森田幼児課副主幹 辰己学校教育課指導主事 近藤学校司書 前田学校司書 大澤学校司書 辻学校司書 澤教育総務課副主幹 伊藤近江八幡図書館副主幹		
次回開催予定日	令和 3年 8月下旬～ 9月上旬		
問い合わせ先	所属名・担当者名： 近江八幡市教育委員会事務局生涯学習課 国本 電話番号：0748-36-5533 Fax番号：0748-36-5565 メールアドレス： 045000@city.omihachiman.lg.jp		
会議記録	発言記録・要約	要約した理由	

事務局	<p>1. 開会 (1) はじめに ただいまより近江八幡市子ども読書活動推進委員会を開催します。 私は今年度、事務局を担当しております、生涯学習課の国本です。よろしくお願 いいたします。皆さまにおかれましては、平素より近江八幡市の子どもの読書 活動推進において、各方面でご尽力いただきありがとうございます。 会に先立ち、生涯学習課長 東 がご挨拶申し上げます。</p>
生涯学習課長	<p>(2) 生涯学習課長挨拶 「令和2年度第2回子ども読書活動推進委員会」を開催するにあたり、一言ご挨拶 を申し上げます。 平素より、本市教育行政にご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。また日頃 は、子ども読書活動の充実に向けて様々な方面でご尽力いただき、ありがとうございます。 さて今年度は、新型コロナウイルス感染症により、様々な活動に制限がかけられ た一年でした。しかし、本委員会の活動は充実したものでした。岩波少年文庫のさ し絵展の見学会や、11月の市民読書月間にむけたポスター配付、図書館では季節に 合わせて工夫されたコーナーを設置されるなど、子どもの豊かな読書活動につな がる取組がなされました。各校園所では、4名の学校司書の皆様を中心に特色ある取 組をすすめていただいています。来年度から稼働する移動図書館の準備が進むなど、 今後も子どもたちが本にふれる機会をさまざまな形でつくることができると考えて おります。 本日は、今年度の活動の振り返りと実績の確認、4月23日の「子ども読書の日」 に向けた取組の検討を行います。 本日の委員会を機会に、読書を好きになる取組が市全体に広がり、本に親しみを 持つ子どもが一人でも多く育つことを願っております。皆様には各方面からご意見 をいただき、子どもの読書活動が豊かになる取組を進めていただきたいと思います。 なお一層のお力添えを賜りますことをお願いし私のあいさつとさせていただきます。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。課長は、公務のため退席いたします。 本日の出席者は現在14人です。予定では、学校司書があと1名出席いただけるとい うことですので、15名と確認しております。半数以上の出席ですので、近江八幡市 子ども読書活動推進委員会設置要綱第6条第2項の規定により、本会議は成立して おります。 近江八幡市会議の公開に関する取扱要綱により、本会議は公開され、会議終了後近 江八幡市HPに議事が掲載されますことをご了承ください。また会議内容を録音いた しますことをご了承ください。あわせて記録用に会議の様子を写真撮影しますが、不 都合な方はお申し出ください。では、はじめに市島委員長よりご挨拶をよろしくお 願いいたします。</p>
委員長	<p>(3) 委員長挨拶 みなさんこんにちは、よろしくお願いいたします。コロナの中で、日本の子どもの学 力はどのようにこれから伸びていくのだろうとささやかれています。とりわけ学力 の中で読解力について、日本の子どもたちは伸び悩んでいるのではないかというこ とをここ数年、耳にします。日本の読書に関する呼びかけというのは、「本はいい よ」、「本をもっと読みなさいよ」という言葉をよくかけると思います。そのあと、 100万回くりかえしても、子どもはなかなか「明日から本読もう」とはならないで すよね。どうしたらいいんだろうかとよく考えるのですが、先日、『フィンランドに おける読書』という本が紹介され、興味深く読みました。フィンランドというのは、 世界でも読解力トップクラスと言われているそうです。なぜ、そのトップクラスの 位置をずっと続けられるのかと言いますと、その中に書いているのは大きく2つで した。</p>

	<p>1 つ目は、子どもたちの身近にいる親なり先生なり大人たちがたくさんの本を読む姿がある。これは国中あげてなんだそうです。2 つ目は子どもたちに読み聞かせをするときに、ただ単に淡々と読むだけでなく、「この場面どう思う？なんでこの主人公はこんなことをしたの？お母さんはこう思うよ。」「いや。お父さんはちょっと違うんだけど、どう思う？」と、会話をしながら本を読み聞かせする姿があると書かれていました。これはどういうことなのかと読み進めていきますと、親子でテレビを見る機会があるときでも、そういう会話をずっとつなげていく。すると、子どもは受け止めるだけではなく、自分の頭の中で「この場面は一体どうなのか。僕だったらこうするかな。」というふうに自然と映像や絵本を読み聞かせしてもらったときに、頭の中や気持ちの中で豊かに考える力がつく。そのようにフィンランドでは取組がされているのかなと感じました。子どもは子どもなりに、いろんな意見を持っています。その読み聞かせをするときに、子どもの素直な意見を聞いてあげること。「それちょっと違うよ。お父さんはこう思うよ。」「いや、私はこうやわ」と押し付けるのではなく、子どもの発想を大事にしながら、すすめていくことの喜びを読書の中に見つけているからこそ、この読書の取組がずっとつなげていくことができているのではなかと感じました。</p> <p>最近の読解力テストの記述式問題で、自分の意見がきちっと与えられた字数の中で表現できない、弱いと言われています。フィンランドの取組に私たち日本も学ぶべきことが大きいと感じながら、その本を読みました。「本を読みなさい」と言うより、これから学校現場においても家庭内においても、読んでいる姿を見せることと、親子で1冊の本を共有しながら語り合うこと、子どもの素直な言葉を吸い上げてもらうことも大事なんじゃないかと思いました。先ほど課長の挨拶にもありましたが、この1年、現場でいろいろな取組がすすめられてきました。来年度はひとつ、「読みなさいよ。読みなさいよ。」ではなくて、大人から「この本はこうだったよ。」と伝える場面を増やすとともに、それを聞いた子どもはその本を読む、そして子どもたちはどのように感じたか聞くといったことが小中学校で定着するといったと思っています。次年度の取組も含めまして、今日の会議が意義あるものになりますようにということで挨拶に代えさせていただきます。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。これより議事に入ります。当会設置要綱第6条第1項の規定により、このあとの進行は、市島委員長をお願いいたします。</p>
委員長	<p>(4) 協議</p> <p>それでは、本日の次第に沿って進めていきます。はじめに、各指標の進捗状況について第1回から追加でご報告ありましたらお願いしたいと思います。まず、「学校司書の配置の割合」についてお願いいたします。</p>
委員	<p>学校司書につきましては、今年度から市内で4名の配置と進んでおりましたが、4月当初はまだ一人欠員で3人でしたけれども、6月より4名で勤務をしていただいています。来年度は市教委としては増員したいという思いはあったのですが、来年度も引き続き4名の体制と決まっています。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。それでは「1ヵ月に1冊以上の本を読んだ子どもの割合」について、学校教育課よりお願いします。</p>
委員	<p>これにつきましては、今年度は未実施ということで、前回の報告同様、現時点では分からない状況です。</p>
委員長	<p>それでは「家で10分以上の読書を継続している子どもの割合」について生涯学習課よりよろしくをお願いいたします。</p>
事務局	<p>前は未実施だったのですが、今回単独で10分以上の読書に関する調査は行えていませんが、小中学校で行われた全国学力学習状況調査の質問紙の中に、家での読</p>

	<p>書に関する項目がありましたので、そちらを報告いたします。小学校6年生で家で10分以上の読書を継続している子どもの割合が51.4%。中学校3年生が58%という結果が出ております。小学校は今年度低いのですが、例年の推移をみますと、58.9%ですので、比較的小中学校ともに同じような割合が見られます。</p> <p>また、前回の委員会で「10分という数字はどこから出てきたのか」という話題がありました。前担当者に聞いたところ、絵本1冊をお家で読むときにかかる時間、小中学校で行われている朝読書の時間もおよそ10分くらいなので、まずは無理のない時間を設定して、その調査から進めようと指標が決めたとのことでした。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。「就学前施設の一人当たりの年間貸出冊数」について幼児課さんよろしくお願ひします。</p>
委員	<p>今年度は調査ができておりません。園の方に聞いているところでは、貸出等は行っていますが、読み聞かせ等も参観やその持ち方についてもコロナ禍ということで密にならないように注意をしながら園の方ですすめていただきました。前回の時に研修会のことをお話させていただいたのですが、1月14日に滋賀短期大学の浜崎先生に来ていただいて、「子どもに伝えたい絵本」と題して絵本のお話を聞かせていただきました。2月15日に大船先生と山下先生に来ていただいて、わらべ歌と絵本をあわせてお話を聞かせてもらう予定をしています。なかなかこういう時期の中で、研修会も持ちにくいのですが、工夫してやっています。</p> <p>「絵本に囲まれて育つ子ども推進事業」というもので、市内の就学前施設に絵本を購入していただいて、園で活用していただいています。この事業は来年度も引き続き継続しますので、今委員さんの方で絵本のリストを作成してもらっています。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。「学校図書館での一人当たりの年間貸し出し冊数」について学校教育課さんよろしくお願ひします。</p>
委員	<p>今年度、4月、5月が休校になっておりましたので、なかなか比較はできないのですが、毎月図書担当の先生から状況報告をあげてもらっている中で、一旦12月末までの状況をご報告いたします。小学校は前年度1年間で18.2冊だったのが、今年度12月末時点でおよそ14冊。中学校では、前年度1年間で一人2冊だったのが、12月末時点では1.9冊です。このまま3月までの推計を予想すると、前年度同等程度または、それを上回るくらいの冊数になるのではないかと予想しています。子どもたちが本をよく手に取ってくれたのかなと思っています。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。「図書館での児童書の一人当たりの年間貸し出し冊数」について図書館さんよろしくお願ひいたします。</p>
委員	<p>年度末の数字はまだ出ていませんが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月中旬から5月19日まで八幡館が休館、6月2日まで安土館が休館しておりました。その影響で8月までは前年度の数字を下回っていたのですが、9月から1月までは前年度を上回る貸出冊数となりました。けれども、合計すると前年度比4.3%、現時点で10,585冊前年度よりも少ないという状況です。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。「図書館と連携を実施している校園所の割合」について幼児課さん、学校教育課さんよろしくお願ひいたします。</p>
委員	<p>具体的に調査できていないのですが、図書館の方に来ていただいて、絵本の貸し出しをしていただいたり、コロナ禍の中で前年度ほどはできていないのですが、読み聞かせをしていただいております。</p>
委員長	<p>「読書活動に関わる研修の実施や研修への参加」について幼児課、学校教育課、お願ひいたします。</p>

委員	先ほど少しお話をさせていただきました研修を行いました。
委員	学校についても、県の研修を案内して、参加をいただいていたのですが、若干コロナの影響で中止になったものもありました。
委員長	以上、それぞれの担当課からの報告が終わりました。それでは、協議および意見交流に入りたいと思います。先ほどのそれぞれの報告を受けて、委員の皆様からご意見ご質問をいただければと思っております。今年度はコロナの影響で、どこも本当に大変な状況でしたので、思うようにすすまなかったことが多々あったと思いますが、いろんな忌憚のないご意見を出していただければと思います。
委員長	では、私から質問させていただいてもよろしいでしょうか。8番目の幼児課さんの報告についてなのですが、滋賀短大の先生が講演にいらしてくださっているのですね。保護者の参加状況はどうでしたでしょうか。
委員	こちらの講演は、職員向けのものでした。ある園では、親子の参観の機会に大船先生に来ていただいて、親子で読み聞かせを聞いていただくとか、ちょっと密にならないように、子どもが前で保護者さんが後ろでちょっと広がっておはなし会をしていただいた報告を受けています。先生が先ほどおっしゃっていたのですが、乳児さんのクラスの時に保護者さんから「読み聞かせをしているときに、子どもがページを先送りしてめくったり、途中で立ってしまうときがあったのですが、そういう時はどうしたらいいのですか。」という質問があり、「子どもが読みたいときにページをめくりたくなるし、そのときに途中でやめてしまったりとか先送りしてめくってしまったら大丈夫なんだよ」ということを先生が言ってくださったら、保護者の方が「ああ、そうなんだ。」と言い、やはりページ通りに読まないといけないのかとか、こういうときがあったらどうしたらいいのだろうと悩みながら聞いてくださり、家での読み聞かせを少し困っていらっしゃる方の声が聞けたということを知りました。保護者の方は「読んであげたい」という気持ちはあるのだけれど、子どもが思うように絵本に触れてくれないときにどうしたらいいのかなと考えておられるのだなと講演で感じさせてもらいました。
委員長	おそらく、その講演を聞かれて安心されたでしょうね。「子どもの素直な表現なんだ」と。よかったですね。そんな風に本に関する講演、読書関係の講演活動というのは、それぞれ小学校や中学校であったりするのでしょうか。講演会などがあると、本をどんなふう読んでいけばいいのかという示唆にもつながると思います。図書館の司書さんとか、学校司書さんとか、そういうお話をさせていただく機会があればいいなあと、幼児課さんのお話を聞くと思います。他どうでしょうか。市立図書館の方では、時々そういった場をご案内いただいたりしていますけど、結構集まっておられますよね。
委員	今年度はなかったですが、そうですね。
委員長	そういう場があると行く機会ができます。「またここでも講演会がある」というふうに広がっていくんじゃないかと思います。ほかにごいませんか。 次に進めたいと思います。それでは子ども読書活動推進に関わる今年度の取組についてご報告をお願いします。まずは、学校教育課さんよろしくお願いします。
委員	学校教育課として取り組んでいることとしては、学校司書を市内16校全校に配置しているということです。16校あるうち、それを4人で回ってもらっているのです、お一人中学校1校、小学校3校と大変多くの学校をお一人で担当していただいていることになっているのですが、やはり学校司書に行ってもらうことで環境が整ったり、子どもたちが本に興味を持つような仕掛けをしてくださったりとか、そういった取組を今年度それぞれの司書ががんばってくれたかなあとと思います。

委員長	ありがとうございます。続きまして、幼児課さんお願いします。
委員	<p>今年度に引き続いて「絵本に囲まれて育つ事業」で各園に絵本を購入していただいております。それをどのように活用していただいたのか、絵本の環境の写真を送っていただいたり、どんな絵本を購入したのか集約をしています。年度当初は園もバタバタしているので、具体的にこの日までには決めていませんが、今年度の貸し出しの統計もできておりませんので、こちらの方から園に発信をしていきたいなと思っております。</p>
委員長	ありがとうございます。教育総務課さんよろしくお願いします。
委員	<p>資料をお配りさせていただきました。資料と共に説明させていただきます。今年度市立小中学校の図書システムを整備をすすめていましたので、その内容等について簡単に説明させていただきます。</p> <p>事業名は「近江八幡市立小中学校図書システム整備」です。目的は、各学校で最長10年以上使用していますパソコンの更新と、無料で提供される書誌データを取り込めるシステムの導入としました。詳しいことは後程ご説明します。対象校は15校です。桐原東小学校は、2年前に整備をしているので今回の対象からは外れています。整備期間は今月末までとなっています。</p> <p>システムが変わるということは、今のパソコンに入っている児童生徒のデータや、蔵書データを15校分新しいパソコンに引越ししなければなりません。まずは、会社が変わっても、今あるデータを新しいシステムに移せるかというテストをしました。そのあと細かい部分を調整しまして、先日本番用のデータを各校から提供していただき現在業者の方で移行中です。今のところ、スケジュール通り進んでおり、残すところ実際に使っていただく現場の先生や学校司書さんへの操作研修のみが残っています。</p> <p>では、次のシステムはどこのものかということ、後ろにつけているカラー版の資料をご覧ください。イメージしていただきやすいように、業者のチラシをつけさせていただきました。次のシステムは、キシステム株式会社というところの「ガリレオの図書室」になります。県内では大津市、彦根市、東近江市がキシステムのシステムを使っています。</p> <p>今回の整備内容は、大きくは5つです。まず1つ目、目的でお話しましたが、端末の更新。古くなったパソコンの入れ替えを行いました。2つ目、15校で3つのシステムをバラバラで使っています。これをすべて同じシステムに統一しました。3つ目、本を新しく買ったときには、その本の情報を登録するときに必要となる書誌データというものがあります。書誌データとは何かというと、本には必ずバーコードがついています。これをなぞると、画面上に本のタイトルとか、誰が書いたとか、値段がいくらかとか、本の情報が出てきます。担当の先生や学校司書さんは、そのデータを利用して、各校のバーコードを貼って、「このバーコードはこの本ですよ」ということを覚えさせます。もしこの書誌データというものがなければ、バーコードのところをなぞっても何も情報が出てきませんので、先生や司書さんが全部手打ちで情報を入れていかなければいけません。これでは時間も労力もかかりますので、書誌データを利用しています。これまではこの書誌データ料として多くのお金を支払っていましたが、調べたところ無料で提供されるものがあることが分かりました。また、それを学校図書館でも利用できることが分かりました。これが無料書誌データの利用ということです。国会図書館が作成しているジャパンマークというデータです。ただ、このジャパンマークは取り込めるシステムとそれに対応できていないシステムがあるということも分かりました。そこで、今回の整備では、目的にも書きましたが、無料の書誌データに対応できるシステムの導入を条件として、コストの削減を図りました。ちなみに、桐原東小で使っているシステムはジャパンマークに対応しています。なので、次の入れ替えの時には対応できるのかなと思います。4つ目、図書室のプリンターですが、図書室にプリンターがある学校とない学校とバラバラでしたので、15校全部にプリンターを整備しました。最後に、初めてハンデ</p>

	<p>イータイプの蔵書点検用の機械を新たに1台だけ導入しました。正確な蔵書数を把握したいという学校司書さんからの要望をいただいております。蔵書点検が効率的に行われるように、来年度から蔵書点検を15校できるように計画を立てていただいて、使っていただければと思います。</p> <p>次に、サーバー型からクラウド型に変わったら、学校の現場は何が変わるの、というところについてご説明します。大きく変わるところは、まず一つ目に学校の先生は一人一台端末でパソコンを持っています。このパソコンから、「授業で使いたい本が、学校にあるのかな」と調べたり、月に一度の学校図書館の利用状況の統計を出したりできます。そのためだけに図書館の鍵を開けてパソコンを立ち上げていただかなくて結構ですし、このパソコンを持っている先生であれば、図書担当の先生でなくてもどの先生でも職員室にしながら図書システムにアクセスすることができます。二つ目に、15校すべての所蔵状況が分かります。三つ目、例えば先生が気になる本があって、調べました。「うちの学校にはないけど、〇〇小学校にはある」ということが分かります。他の学校が持っていたら見せてもらうとか、借りる、取り寄せるということが出来ます。このようなことは、同じシステムを使っていないとできないので、図書システムの統一を図りました。ここ10年で図書システムも変わってきています。今の時代ですので、学校間のつながり、情報の共有も含めまして市全体がつながってほしいという思いもあって、今回整備をしました。</p> <p>これまでの会議でお話を聞いていて、みんなそれぞれ先生も学校司書さんも一人ひとり頑張ってくれておられる。それはよく分かりました。ただ、チームという言葉がふさわしいかは分かりませんが、「子どもの読書の関わるみんなチームだ」という気持ちが低いように思いました。それぞれ経験年数も違うし、立場も違います。でも、子どもの読書への熱い思いは、みんな持っていると思うのです。なので、一人だけ飛びぬけていても、一つの学校だけ飛びぬけていても、市全体としてよくなると思うのです。本の選書一つにしても、コーナー作りにしても、子どもの読書を支えている大人も本を楽しんで、大人もレベルアップしていく、そのことによって子どもたちの読書の質も上がっていくのではないかなと思うのです。なので、どの学校においても、子どもたちの読書の幅、学習の幅が広がるように、チーム一丸となって子どもたちの読書を支えてほしいなど、いろいろな思いを込めて整備しましたので、学校図書館も少しずついいので変わってもらえると嬉しいなと思います。以上で、新図書システムの説明を終わります。</p>
委員長	<p>非常に分かりやすい説明で、大きく来年度から変わっていくんだなということを感じました。では、報告を受けて、協議および意見交流に入らせていただきます。来年度に向けて、もっとこんなことができたらいいなとか、日頃思っていたらいいこと、あるいは今生涯学習課さんの方でご提議ございました内容についてもふくめまして、お出しいただけるとありがたいです。</p>
委員	<p>具体的に何をすればいいかというのか、ちょっと思いつかないんですけど、私はボランティアとして参加させていただいて、ちょっと去年はコロナでできなかったんですけど、その前とかボランティアで安土コミセンで「福祉フェスティバル」があったら、子どもが来るだろうから絵本をたくさん置いて、お母さん方が見ている間は子どもたちに絵本を読むコーナーをつかった取組をしました。そういう時に小学1年生が来て「この本読みたいな」と思って本を持ってきて、一緒に読んであげようかなと思って読み始めると、お母さんが「うちの子はもう字が読めますから、子どもに読ませてください」と言われたことがあるんです。やっぱり、子どもが字が読めるというだけで親御さんが思っていると、子どもが本を読むということが広がらないなと思うんです。本は楽しいものなんやとか、本から受け取れるものがないと、子どもは次も読もうと思わないから、親御さんがただ単に「本は読むものや」という認識だけでなく、本に対する認識を新たにとらえてもらえるといい。</p> <p>先生方や図書館の方がすごく一生懸命にやってくさっているんですけど、家庭の親御さんに対する取組が大事じゃないかなとすごく思う。それが具体的にどのようなことをすればいいのかというのは分からないのですが。図書館もやってもらって</p>

<p>委員長</p>	<p>るんですが、来館する方はやっぱり関心があったり、思いを持って来る親御さんが多いと思うんです。でも、「ただ文字が読めたらいい」とか「点数が上がったらいい」という感じだけでの本の捉え方をしているらしい親御さんにむけて、なんか出来たらいいけど、ちょっと具体的には分からないです。その辺の取組では、どのようなものがあるのでしょうか。難しいと言えば、難しいのですが。</p> <p>本との与え方にもよりますし、例えば、子どもがぐずっているときに、スマホを見せて「これを見せていれば、静かになっているわ」という感覚で「本さえ与えておけば文字も読めるから、もうそのうちに一人で読み進めるだろう」という感覚であってはダメだということですよ。</p> <p>絵本だったら、文章やストーリーだけでなく、絵の美しさ、いろんな絵が出てきますよね、その美しさにふれることも、心を豊かに子どもたちが成長していく一つの糧になるのではないかと思います。今おっしゃったように、いろんな現場で読書の楽しみ方、喜びを広げようとしたときには、周りの大人たちももっともって本を読もうという姿を見せることと、そういう話題が日常的に広がっていくこと、そして機会あるごとにその本に対してあまり興味関心のない親御さんにもいっぱいそういうことを伝えていく機会が増えていくことって必要なんじゃないかと思えますね。司書さんは、日頃子どもたちの様子を見てくださっていて、その辺のところを感じておられることはありますか。</p>
<p>委員</p>	<p>私は安土小学校、安土学区に行かせてもらうことが多いんですけども、親子で本を読むということを取り組んでおられる学校は学校長からとか、学校で決めて親子で親子読書をやっているということはあると思う。子どもたちが本を持って帰って、積極的におうちの人と読むってことをどれくらいやっているのかは分からないところですよ。</p> <p>今話を聞いていてふと思ったのは、親子読書で親が子に聞かせるものはよくやっているのですが、子どもが学校の図書館から本を持って帰って親に絵本を読み聞かせするとか、兄弟に紹介するとか、子ども発信で家庭を巻き込んで読書をする機会を増やしていく、触れる時間をとっていくといいのかなと思いました。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p>
<p>委員</p>	<p>昨年8月の広報で、図書館から絵本の紹介をさせてもらったときに、保護者の方に一番伝えたかったのは、「字が読めるようになって読み聞かせをしてあげてください」「子どもと一緒に過ごすわずかな時間でも、家庭で絵本を楽しんでほしい」ということでした。おそらく水委員が言われたこともそういうことなのかなと思います。</p> <p>大人が読む姿を見せるというのはとても大事だと思います。ただ、子どもが自分で文字を読めるようになって、文字を一文字ずつ、たどたどしく読んでいても、子どもの心の中にストンと入って、情景やイメージがふくらんで、お話の世界に入っていけるかという、大人から読んでもらった時とは違うと思うのです。</p> <p>私の子どもは小学5年生ですが、今でも本の読み聞かせをしています。図書館では、岩波少年文庫のさし絵の世界展と同時にイラストや感想の募集をしています。この展示は、市内の全小学校と一緒に開催したかったのですが、なかなか小学校に岩波少年文庫の所蔵がないということで、図書館単独でさせてもらっています。今は、その中の作品、「ナルニア国物語シリーズ」を子どもに読んでいます。一日、10分、20分と毎日読めるわけではないのですが、子どもは布団に入って、私が読む物語を聞いています。外で遊ぶのが好きな子なので、自分から進んで本を読んだりすることはないのに、読み聞かせをとっても楽しんでます。「図書館で展示するので、イラストか感想を書いてみる？」と聞いたところ、「洋服ダンスの中からナルニアの世界へとつながっていくという場面が本当にすごいと思った。」と書いてくれました。本の世界にすっかり入り込んだとも書いてくれたので、驚きました。読み聞かせしている本がどう届いているのかと気になりながらも、私自身も楽しい</p>

	<p>時間を、本を介して子どもと過ごさせてもらっている状態です。</p> <p>字が読めるようになって、お母さんと一緒に過ごす時間、たった10分、20分という時間でも、子どもにとっては安心できる時間なのだと実感しています。不思議なことに、読み聞かせをすると子どもは心地よいのか、スッと寝ます。</p> <p>ある研修で、全国的に子どもへの読み聞かせの効果について調査をしている先生が、読み聞かせをすると、子どもが落ち着いた、親子の絆が深まったという実態調査の結果について話をされたことがあります。字が読めるようになって子どもには、本を読んであげてほしい。本の楽しみを知ることで、いつか自分から本を読むようになるのだと思います。</p> <p>そういった取組が各家庭でできればいいのですが、なかなかそれが難しい。です。ので、学校の先生に朝の5分でも10分でも、例えば水曜日の朝の時間でも週に1回でもいいので、読みきかせをする時間を作っていただけたらと思っています。信頼できる大好きな先生から、読んでもらえたら、子どもたちの心に一生残る宝物になるのではないかと思います。1冊の本やシリーズの本を1年間かけて読んでもいいですし、絵本を1冊読むのもいいですし、学校でそういう取組ができないでしょうか。小学校の先生はすごく忙しいと聞いています。事務局の話を知っていると、まだ中学校の先生の方が朝の時間などに余裕があるという話でしたが。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。他いかがでしょうか。</p>
委員	<p>伊藤さんがおっしゃった話そのままなんですけども、私が担当している市内の小学校の1年生の先生とついこの間お話する機会があって、その先生は、いつも私が来ているときを狙って子どもたちを連れてきてくれます。1学期の学校が始まってすぐのときは、あんなに本があるにも関わらず、一冊選ぶのが難しく泣いてしまった児童さんがいたんです。そして今3学期になり、先生が「選べなかったら、先生に読んでもらいたい本を選んでおいで」という風に声をかけてくださって、お家で読んでもらえるといいんですけども、保護者さんもお忙しいですし、「先生に読んでほしい本を選んでおいで」と言うと、みんな自分が借りたい本とは別に1冊ずつ選ぶそうです。一週間の間に、先生がどっかで時間を見つけて、1対1で読むときもあるし、5対1で読むときもあるし、隙間時間を見つけて読んでくださっていると聞いて、すごくいい時間だなと思いました。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。いっぱいいいお話を聞かせていただきました。</p> <p>私も、他のお仕事で小学校に寄せていただくことがあるんです。そのときに、ある小規模校の小学校だったんですけど、新任の女の先生が学級担任をしていた時のことなんですけれども、一年間水曜日の帰りの会に「今日は本を読む日だね。みんな座ろうよ。」と言って読み聞かせをしておられました。「忙しい中ですがいいことだなあ。帰りの会でよくこれだけのことができるなあ」と思っていました。</p> <p>ところが、その先生が他の学校に変わられて顔を合わせることはありませんでした。その先生の新しい学校では周りに絵本を読む先生がいないものだから、その先生は全くやらなくなりました。だから、どなたかが数人とかある学年でとかで実践が積み重ねられていったら、また違ってくる今のお話を聞かせていただいて感じました。</p> <p>小学校の先生は、本当に一日子どもたちに張り付いて、とっでもしんどい思いをしておられるなどひしひしと感じておりますが、そんな中で絵本だったら大人でも感動する絵本がたくさんありますので、ちょっとした時間を見つけて、ほんの数分でもいいので読んでもらえるような実践がスタートしないのかなといつも思います。また、司書さんの方でも、ちょっと学校の先生方に揺さぶりをかけていただくというのは、どうでしょうか。なかなかこれはしんどい作業なんですけれども。</p> <p>そんな中で、先生のお勧め本を司書さんが書いてくださいとお願いなさったんだと思いますけれども、学校のどこかに掲示してあったりすると、やっぱり子どもたち読んでますし、私たちが学校訪問させていただいたときにも、「あの先生がこんな本読まれるんや」と嬉しくなります。</p>

事務局	<p>今日ご欠席されている、八幡工業高等学校の浅井先生に、高校でのお取組を事前にお聞かせいただきました。クリスマスの時期に、「ヒンメリ」というフィンランドの飾りがあり、かわらミュージアムで展示会をされていたそうで、そこでお借りをして、クリスマスの装いと共にお薦めの本を掲示された実践を聞かせていただきました。生徒もそれを見て、本にも興味を持っていただきたと話をいただきました。</p> <p>また、私から一部資料をお配りさせていただきました。今年度、十分にはできていないところもあるのですが、11月の市民読書月間の周知や、年度初めの休校期間中に「心を育む絵本の時間」のプリントを市内の就学前と小中学校の先生方にお配りさせていただきました。また、市民読書月間については、まだまだ認知度が低い実態があるので、各クラスに掲示していただけるようなポスターを各小中学校に配布をさせていただきました。市の広報にも「市民読書月間」についてA5サイズの記事を掲載させていただいて、子どもだけでなく先生方や市民の方々や保護者の方など、いろいろな人に広報活動を通して読書について目を向けてもらうような取組ができればと思います、実践させていただきました。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。他にはございませんでしょうか。それでは、つづいて参りたいと思います。すぐにやってくるのだと思いますが、4月23日の「子ども読書の日」に関わる具体的な取組について事務局の方でご提案があります。よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>先日、担当者会をひらかせていただきまして、司書さんや担当課でどういったことができるのかと検討させていただきました。今から提案させていただくものを土台にして、ご意見いただければと思います。</p> <p>3本柱で考えておりまして、一つが子ども向けの取組です。4月の年度初めで学校現場としても、就学前の先生方も大変忙しく、先生方に何かしてもらうというのは難しいので、小中学校では、この推進委員会からブックトークの映像を作成して電子黒板に流してもらうことや、就学前や高校では映像を教室で見る環境が整っていないので、おススメの本のポスターをつくるなどして、子どもたちに「子ども読書の日」を機会におススメ本の紹介やブックトークのビデオの放映ができればと考えております。</p> <p>二つ目が、先生方への取組です。4月ですと、仲間づくりや学級経営がスタートし大事になってくるので、先生方の実践に参考になる専門書の紹介や、子どもたちへの読み聞かせに使ってもらいたい本の紹介をするプリントの配布をしようと思っております。</p> <p>最後は、保護者や市民に向けて、11月と同様に市の広報誌4月号で「子ども読書の日」の周知の記事を作成しようと思っております。今のところ「4月23日が子ども読書の日なんだよ」ということを、まず浸透させるところからのスタートになっています。担当者会の中では、それがもう少し根を張って幹になってすすんでいくと、子どもたちを巻き込み、子どもたちが自分の好きな本を紹介したり交流するなど、子どもたち自身が「子ども読書の日」を盛り上げられるような近江八幡市になればと考えています。</p> <p>そう考えた経緯としましては、八幡中学校の一年生で各クラスの国語の時間にビブリオバトルを行われて、最後の各クラスのチャンプ本7冊で学年のビブリオバトルをして、学年のチャンプ本を決めたという実践を聞きました。そのように各校で選ばれたチャンプ本をプリントにまとめ、市内の子どもたちで交流できると、子どもたちの活動をもとに「子ども読書の日」を盛り上げる取組になると思いました。最終的なゴールなので、なかなかすぐには難しいのですが、そのようにすすめられればと考えていました。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。これがずっといろいろな学校で続いていけば、ずいぶん大きな前進になるかと思えます。今の事務局の提案について、質問やご意見はございますでしょうか。</p> <p>ビブリオは、八中さんですよ。何か近藤さんの方で、補足等ありますでしょうか。</p>

委員	全然関わりはないです。授業でされました。
委員長	国語の授業ですか。
委員	はい、そうです。お声がけもなかったので。事務局からお話を聞いて初めて知りました。
委員長	そうでした。それは残念ですね。
委員	私も、お話を聞いただけなので、できれば実際の様子も見られたらよかったなと思っています。
委員長	<p>そうですね。せっかくいいお取組をされているので、どんな様子か見たかったですね。ご意見等ございませんでしょうか。</p> <p>また、来年度はそういった新しいお取組なんかがあれば、どなたかが耳に入れたときには、事務局や学校教育課に知らせを下されば、また広がるかなと思います。そして、一つひとつの小さな学校のお取組であっても、それが市内全体の学校にどんどん広がりを見せることは、先ほど事務局からおっしゃられた通り、すごく大事なことだと思います。「あそこの学校だからできるんだろう。うちでは無理。」ではなくて、「うちもチャレンジしてみようか」という働きかけが大事ではないかなと思います。</p> <p>以上、いろいろなご意見を出していただき、ありがとうございました。以上で議長の任を解かせていただきます。皆さまご協力ありがとうございました。</p>
事務局	<p>あと、今年度の2、3月の取組ですが、金田小学校でビブリオバトルを実践される学級があります。2月22日に私と辰己指導主事と近藤学校司書と担任の先生でビブリオバトルの見本を授業で子どもたちに見せに行って、次は子どもたちが本を選んで台本をつくり、3月1日に子どもたちのビブリオバトルを実践されます。この3月1日の授業をこの委員会で参観できればと考えております。</p>
委員長	何年生が対象ですか。
事務局	3年生です。また、ご都合のよろしい方は、参観にご参加ください。よろしくお願いたします。
委員長	またそういったご案内はいただけますか。
事務局	<p>はい。後日案内いたします。</p> <p>市島委員長ありがとうございました。みなさまにおかれましても、お忙しい中ありがとうございました。4月23日の「子ども読書の日」に向けた取組を本日いただいた意見をもとに、少しでも子どもたちの読書が豊かなものになるようご協力いただきますようお願いいたします。では、閉会の挨拶を水委員よりお願いいたします。</p>
委員	<p>みなさん、今日のご苦労様でした。いろいろなお話を聞いて、みなさんそれぞれが努力されているなと思いました。今日はシステム整備の部分で、すごく事務的なところは簡易化させて、子どもたちと直接出会うところをきめ細やかにするということが、すごく大事じゃないのかなと思いました。私は保育所にも行っているのですが、長い間コロナ禍で行けなくて、初めて10月に行ったときに、子どもたちの視線がすごく一生懸命で、楽しみにしているのがよく分かりました。終わってから、教室を出るときに、「次いつ来てくれる？」「楽しかった」「今度は何を読んでくれる？」とか話しかけてくれました。やっぱりこうしたコロナの時期だからこそ、本が待たれてる、必要なんだなと感じました。こうやって子どもたちのために本を届</p>

	けようと思ったださる方がたくさんいてくれるのが、うれしいことだと思います。今日は大変有意義な時間を持ってました。ありがとうございました。
--	--

担当課 ⇒ 総務課